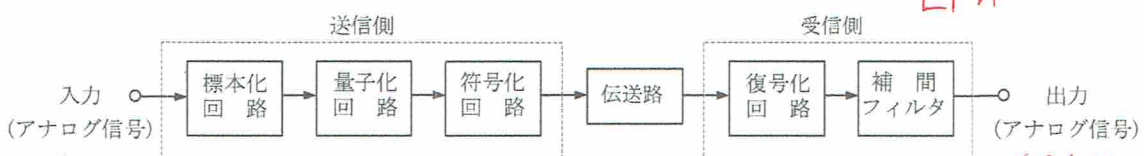


A - 13 次の記述は、図に示すパルス符号変調(PCM)方式を用いた伝送系の原理的な構成例について述べたものである。□内に入れるべき字句の正しい組合せを下の番号から選べ。

- (1) 標本化とは、入力のアナログ信号から、一定の □ A □ で振幅を取り出すことをいい、入力のアナログ信号を標本化したときの標本化回路の出力は、パルス振幅変調(PAM)波である。
- (2) 振幅を所定の幅ごとの領域に区切ってそれぞれの領域を1個の代表値で表し、標本化によって取り出したアナログ信号の振幅をその代表値で近似することを量子化といい、量子化のステップの数が □ B □ ほど量子化雑音は小さくなる。
- (3) 復号化回路で復号した出力からアナログ信号を復調するために用いる補間フィルタには、□ C □ が用いられる。



- |          |     |             |
|----------|-----|-------------|
| A        | B   | C           |
| 1 信号対雑音比 | 少ない | 低域フィルタ(LPF) |
| 2 信号対雑音比 | 多い  | 高域フィルタ(HPF) |
| 3 時間間隔   | 多い  | 低域フィルタ(LPF) |
| 4 時間間隔   | 少ない | 高域フィルタ(HPF) |

一秒 44100  
65356

